

日本民家園だより

特集 大工道具・水車小屋

Vol.81



企画展示「大工さんの道具箱 —きる・けずる・たたく—」
2014年7月1日(火)～11月30日(日)

大工さんの仕事道具

みなさん、こんにちは。民家園の中には、昔の人が住んでいた古い家がたくさんありますが、どのようにして建てられたか知っていますか？特に木でできた家は昔も今も、家が建つ場所の地面を固める職人さん、屋根や壁をつくる職人さん、家の中の戸やふすまをつくる職人さんなど、さまざまな職人さんたちが仕事を分担して協力しながら建てています。

その中でも今回の展示では、家の骨組をつくったり、家の中の細かい部分や床などを仕上げたりする職人である「大工」さんが使ういろいろな道具を紹介します。



曲尺



墨つぼ

はかる・しるす

まずは、木材を加工する位置決めです。「曲尺」や「巻がね」、「スコヤ」など、長さや直角をはかるいろいろな道具があります。また、大工さんが木材にしるしをつける道具には、墨をつけた糸を使って線を引く「墨つぼ」や、刃物で細い線を引く「罫引」などがあります。



のこぎり

きる

木材を加工する位置が決まったら、次はそれを「のこぎり」で切っていきます。のこぎりには大きくわけて、木を縦に切るものと、横に切るものがあります。また、木を大きく切るものから、細かい部分の加工に使うものなど大きさや形もさまざまです。



ちょうな



やりがんな

はつる・けずる

昔は、木の表面を平らにしようとするときには「ちょうな」や「まさかり」を使いました（この作業を「はつる」といいます）。「やりがんな」という道具もありましたが、まっ平らにはできないので表面はでこぼこです。

時代が進むと、より表面を平らにつるつるにけずることができるよう「かんな」が使われはじめました。大きな面をけずるかんなや溝をけずるかんな、木材の角をけずるかんななど、使う場所にあわせていろいろな種類があります。



かんな

ほる

家を組み立てるためには、木材に穴をほったり、穴に差しこむ部分をけずったりしてさらに加工しなければなりません。そのときに活やくする道具が「のみ」です。のみには大きくわけて叩きのみと突きのみがあります。叩きのみは、木材をけずったり穴をほったりするときに「げんのう」という道具で叩いて使います。突きのみは、木材の表面をきれいに仕上げるためのもので、手の力だけで使います。このほかにも、ほる場所や使い方によってさまざまな形があります。



叩きのみ



突きのみ

あける

のみのほかにも、穴をあける役割をもつ道具が「きり」です。くぎを打つ前に穴をあけておくと、くぎが入りやすくなります。きりの先をよく見てみると…まっすぐとがったものや三又にわかれているもの、ねじのようになったものなどいろいろな形があります。



きり

たたく

叩く道具には、「げんのう」や「かなづち」があります。げんのうは、のみを叩くほかにくぎ打ちにも使います。まず、片方の平らな面でくぎを打ちはじめ、打ち終わりに近づくと、もう片方の少しふくらんでいる面を使います。これは、木材を傷つけないための工夫です。かなづちは、主にくぎを打つときに使います。



げんのう

手入れ道具

ここまで、主だった大工さんの道具を紹介してきました。このほかにも欠かせない大工道具の一つとして、大事な道具をいつもぴかぴかにしておくための「やすり」や「砥石」といった手入れの道具があります。大工さんに限らず、職人さんは道具を大切にし、使えなくなるぎりぎりのところまで使いました。



砥石

(小澤葉菜)

山里のくらしを^{ささ}支えたクルマヤ

みなさんは水車を知っていますか。水が流れる力を利用して、人の仕事を代わりにしてくれる便利な道具です。電気やガソリンがない時代、人の力だけでは時間がかかる大変な作業がたくさんありました。多くの作業を短時間で楽に行うためには、水車小屋の力が必要だったのです。

民家園の水車小屋は、長野県長野市の山里である「池平」という集落に建っていました。住人は「クルマヤ」と呼び、とても大切にしていました。

池平のクルマヤで行われる仕事は、大きく分けて3つあります。1つ目は、米や麦、ソバの実を杵でついてカラやゴミを取りのぞき、食べるためにきれいにする作業です。2つ目は、きれいになった小麦やソバの実を石臼でひいて粉にする作業です。この粉でうどんや蕎麦をつくりました。3つ目はワラを叩く作業です。ワラというのは、稲の茎を乾燥させたものです。このワラを杵で叩いてやわらかくしたあと、縄や敷物などの生活道具をつくりました。

池平にクルマヤがなかったころは、となりの集落のものを借りていました。それでは大変だということで、住人全員でお金を出し合っただけでつくったそうです。一日ずつ当番が決まっています。毎日交代しながら使っていました。掃除や修理もみんなで行い、長く使うため大切にしてきました。しかし、昭和40(1965)年ごろになると、クルマヤが行っていた作業は電気やガソリンを使って動く機械で行うようになりました。役目を終えたクルマヤは、その後民家園へ移築され、今でも元気に回りながらみなさんをお待ちしています。

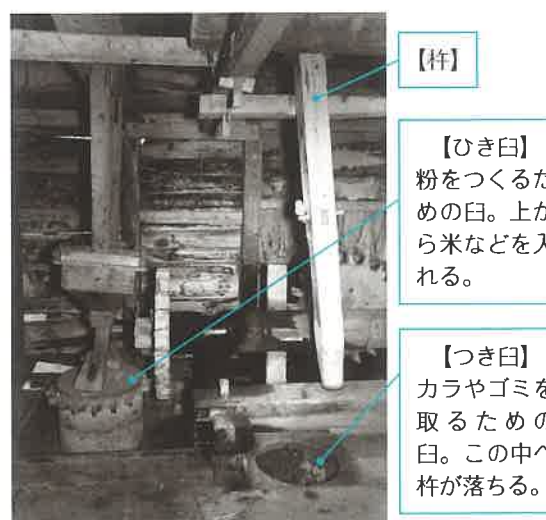
(畑山拓登)



写真1 現在の池平集落(平成25年撮影)



写真2 移築前のクルマヤ(昭和45年撮影)



【杵】

【ひき臼】

粉をつくるための臼。上から米などを入れる。

【つき臼】

カラやゴミを取るための臼。この中へ杵が落ちる。

写真3 移築前のクルマヤ内部(昭和45年撮影)

日本民家園だより vol.81 発行：平成26年7月1日

川崎市立日本民家園 URL <http://www.nihonminkaen.jp/>

〒214-0032 川崎市多摩区枡形7-1-1 TEL 044(922)2181 FAX 044(934)8652

交通 小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [3~10月] 9時30分~17時 [11~2月] 9時30分~16時30分 (入園は閉園30分前まで)

休園日 毎週月曜(祝日の場合は開園)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開園)、12月29日~1月3日

入園料 一般500円、高校・大学生300円、65歳以上300円(川崎市在住の方無料)、中学生以下無料